

Colletotrichum acutatumのビワとイチゴ間の相互感染						
[要約] イチゴから分離した <i>Colletotrichum acutatum</i> はビワ果実に病原性を示し、ビワから分離した <i>Colletotrichum acutatum</i> もイチゴ苗に対し病原性を示す。						
長崎県果樹試験場・病害虫科	専門	作物病害	対象	果樹類	分類	指導
平成12年度 長崎県果樹試験場業務報告						

[背景・ねらい]

ビワ炭疽病の病原菌には*C. gloeosporioides*と*C. acutatum*の2種あるが、最近の現地調査の結果から*C. acutatum*の方が優占していることが明らかになっている。また、*C. acutatum*はイチゴにおいても発生が多く問題になっており、ビワとの間で病原菌の往来が可能か調査した。

[成果の内容・特徴]

- ①イチゴ由来、ビワ由来の*C. acutatum*の分生子懸濁液をビワ「長崎早生」、「福原早生」の2品種の落弁期に噴霧接種した結果、いずれの宿主由来の*C. acutatum*接種果実ともに果実の内部から炭疽病が発病する(表1)。
- ②その発病した各由来のビワ腐敗果実から再分離した*C. acutatum*の分生子懸濁液をイチゴ苗「とよのか」に噴霧接種した結果、*C. acutatum*による炭疽病特有の病徴を示す(表2)。
- ③以上のことから*C. acutatum*はビワとイチゴの間で往来が可能と思われる。

[成果の活用面・留意点]

- ①ビワ腐敗果やイチゴ発病株の処分を適切に行う必要がある。

[具体的データ]

表1 イチゴ、ビワ由来*C. acutatum*のビワ果実（落弁期接種）への病原性

供試菌	品種	接種果数	発病果数
イチゴ由来菌	長崎早生	40	3
ビワ由来菌	長崎早生	26	7
無接種	長崎早生	37	0
イチゴ由来菌	福原早生	29	3
ビワ由来菌	福原早生	31	15
無接種	福原早生	33	0

表2 ビワ腐敗果から分離されたイチゴ、ビワ由来*C. acutatum*のイチゴ苗への病原性

供試菌	接種株数	発病株数	発病小葉率(上位3葉)	発病葉柄率
イチゴ-ビワ「長崎早生」由来菌	10	7	14.4%	26.7%
イチゴ-ビワ「福原早生」由来菌	10	8	6.7	16.7
ビワ-ビワ「長崎早生」由来菌	10	3	5.5	3.3
ビワ-ビワ「福原早生」由来菌	10	3	3.3	6.7
イチゴ分離菌株	10	1	0	3.3

[その他]

研究課題名：果実腐敗の発生要因の解明と効率的防除法の確立

予算区分：県単

研究期間：平成12年度（平11～15）

研究担当者：小嶺正敬、織田 拓（総合農林試験場）、大久保宜雄

発表論文等：第66回九州病害虫研究会講要（印刷中）